令和８年度東海村障がい者総合支援協議会 第2回安心部会　会議録

開催日時	令和8年9月24日（木）午後1時30分から午後3時まで
場　　所	東海村総合福祉センター「絆」多目的ホール
出 席 者	**●委員** 有賀会長，有阪副会長，坂下部会長，恩智委員，土屋委員，宇都宮委員，照沼委員 *順不同 **〇事務局** 齋藤課長補佐，横山係長，小松主任精神保健福祉士,片山社会福祉士，記録者
欠 席 者	冨田副部会長
次　　第	1　開会 2　部会長あいさつ 3　議事 (1)「避難訓練に関するアンケート結果」の振り返りと今後の取組みについて (2)避難行動要支援者避難支援制度の見直しの取組み状況について (3)障がい者プランの策定状況について 4　今後の予定 5　閉会
議　　事	（行頭記号：●⇒委員，〇→事務局） (1)「避難訓練に関するアンケート結果」の振り返りと今後の取組みについて 【振り返り】 〇訓練のアンケート結果を資料に基づき説明。 週末に茨城県に接近した台風25号においては，災害ハザード地区の住民に避難を促す声掛けをしたが，避難所に対しての不安が多く，実際には避難に至らなかった。具体的な不安要素としては，「バリアフリーが十分ではない」，「トイレが一人ではいけないため不安」，「雨の中避難することで，体調を崩し，その後の生活に支障がでるのが嫌だ」といった理由が挙げられた。このように，がけ崩れの危険性よりも，避難先での不安要素が大きく上回ってしまい，避難を躊躇する結果となった。今回の事例を踏まえると，災害時の避難のあり方について改めて検討するとともに，住民一人ひとりが平時から自身の避難行動について考える機会を設けることの重要性を感じた。 ●アンケートの結果を踏まえて，課題の抽出をし，今年度の安心部会で検討するテーマの絞り込みを行いたい。 《①気になったこと印象に残ったこと②課題》 ●障がいの区分，年齢の内訳が気になった。 ●アンケートの結果は公表する予定なのか。 〇事業所を通じて回答を依頼したため，事業所には結果をお伝えする。防災無線についてご意見をいただいているため，村HPに防災無線の内容が掲載されている旨等の情報を加え，結果をお戻しする予定。 ●多くの回答を得られたことは非常に良かったと思う。一方で，資料の円グラフ，棒グラフについては，単位の記載がなく，実数が表示されているため，分かりやすくするた

	めに％（パーセンテージ）で表示する必要があると感じる。また，棒グラフの項目については，回答数が多い順に並べ替えるなど，より見やすい工夫が必要である。 ●今回の81人という回答数は，村内の障がい者全体の何パーセントに当たるのか。また，回答者の中では知的障がい者の割合が高くなっているが，これは村全体の障がい者における割合が高いためなのか，あるいは事業者を通じて回答を依頼したことでそのような割合になっているのか，どちらの理由によるものか。 ○手帳の交付者数自体は身体障がい者が最も多い。しかし，事業者への通所者は知的障がい者が多いため，結果として今回の回答における知的障がい者の割合が高くなっているものと考えられる。 ●81人の回答者の中で，避難訓練に参加した人数が7名という結果に驚いた。避難訓練の事前説明を写真や動画で説明する必要があると感じた。 ●地域社会において，障がいのある方は身近にいらっしゃるはずだが，それを分からないまま生活している住民も多いのではないか。自分たちの身の回りにどのくらいの障がいのある方が暮らしているのか，地域の実態が把握できるようになるとよいと思う。 ●避難行動要支援者避難支援制度について知らない人が多いため，制度の周知をする機会を増やすことが必要だと思う。 ●今回の台風で連絡した方は名簿に名前のあった住民なのか。 ○避難行動要支援者の名簿にあり，かつハザード地区該当者に連絡した。 ●トイレの不安について回答が多かったことについて気になった。子どもはトイレの環境が変わると，トイレができない。障がいがある方も，環境が変わると緊張感によりトイレができず，膀胱炎になったり，水分をとらなくなり脱水になったりするのではないかと感じた。 ●トイレの構造は，身体障がい者にとっては重要であり，背もたれや介護用ベッドの有無が，避難先でトイレを使用できるかどうかの判断基準となりえる。動画等で事前に避難所の様子がみられるとよいのではという意見は，有効な改善案だと感じた。 ●避難所のトイレ環境が十分に整備されていれば，安心して避難を決断できる人が増えるのではないか。 ●東海村のコミュニティセンターはどのようなトイレなのか。 ●コミュニティセンターのトイレは車いすが入れるか入れないかくらいで十分に整備はされていないと思う。 ●多目的トイレがあっても，介護用ベッドがあるとよい。仮にベッドがなくても，テーブルを活用し，マットやシーツを敷くなどして代用は可能。そうした対応も含めたトイレの状況を事前に周知する必要がある。 ●課題は，東海村の避難所においてトイレの状況を把握することだと思う。 ●トイレを不安要素として挙げる方が多い背景には，避難所のトイレを実際に利用した経験がないことが関係しているのではないか。平常時からコミュニティセンターを利用していれば，避難の不安要素としてトイレを挙げる人は少なかったのではないかと思う。仮設の災害時用のトイレはあるのか。 ●ポータブルトイレがある。しかし，仮設トイレを覆うテントが狭いと車いすが入れない場合がある。保健室のようなベッドが置ける部屋を確保すると利用しやすいと思う。

	●アンケート結果では,「人が多い場所が苦手」,「慣れた支援員がいないと不安」といった意見が見られた。こうした点を踏まえると,長時間にわたる避難訓練への参加は難しいのではと感じた。そのため自宅から避難所まで散歩もかねて足を運んでみるような「地域の避難場所見学ツアー」のような企画を実施してみてはどうか。 ●防災無線が聞きにくいという意見があったが,防災無線が文字化されたものは村にあるのか。 ○流した防災無線は村のHPに掲載される。 ●防災無線からの情報を得たい人も多いため,簡単な言葉で伝えることが大事だと思う。 ●アンケートに防災無線について,「どの情報を信じたらよいのかわからない」「いつ避難すればよいのかわからない」という意見があった。受信側に迷わせるような情報を出すと,かえって「よくわからないから家にいます」と避難を控える人が増えてしまうのではないか。実際に,スマホやテレビには緊急情報が表示されていた一方で,防災無線は静かであるといった状況が見られた。情報の選択肢として受け手に委ねるではなく,受け手が迷わないよう,発信する媒体や内容をしっかりと統一する必要があると思う。 ●先日の台風では,防災無線,村のLINEにも流れていた。 ●地震と台風では避難方法は変わってくる。サポーターや親が慌てないためには,地域の避難場所を分かっていたほうがいいと思う。防災無線を頼りにしている家庭からすると,例えば,「大地震です」といった放送では,かえって慌ててしまうことがある。実際に防災無線を聞いている人がどのように感じているのか,その考えを聞くべきではないか。情報を伝える際は,親やサポーターが当事者である本人へ伝えやすい内容であることが重要である。状況と取るべき行動が明確にわかる放送が流れるとよいと思う。 ●避難行動要支援者避難支援制度における個別避難計画書をしっかりと立て,計画の内容を支援者側も事前に理解しておくことが重要である。 ●安心サポーターはどんな人がいいのか。 ●避難訓練時は安心サポーターが参加できるといいと思う。 ●登録者と安心サポーターとの前もっての交流が必要なのではないか。 《③改善案・工夫》 ●障がいの特性だけではなく,地震や風水害などの災害の種別による避難方法の違いを考慮する必要がある。ハザードマップ等に基づき,危険度に応じた避難の優先順位やタイミングを検討してはどうか。 ●避難行動要支援者避難支援制度の登録時に想定される災害を挙げ,「警戒レベル○で避難してください」といった具体的な避難のタイミングを個別に説明していくことが必要。 ●今回事業所にアンケートを実施したことから,事業所で実施している防災に関するプログラムを確認することが必要なのではないか。 ●避難行動要支援者避難支援制度について,「実際に制度を使ってよかった」という住民の声があると,利用促進につながるのではないか。

	●アンケートを実施すると，「あのアンケートはどうなったのか」という声をいただくことがあるため，アンケートの結果や現在検討している内容について，発信していくべきである。 《④今後の部会の議題について》 ●アンケートでは，「トイレの不安」が避難を躊躇する大きな要因として挙げられており，トイレ環境の改善が進めば，災害時に避難所への避難を選択できる障がい者が増えるのではないかという考えのもと，まず部会でコミュニティセンターのトイレの実際の状況を把握する必要がある。そのため，次回の部会の議題として，コミュニティセンターのトイレの状況を把握し，改善案を検討するのはどうか。これに併せて，「避難所ツアー」の実施についても検討してはどうか。 ●コミュニティセンターのトイレ視察の実施に向けては，部会長と事務局で協議の上，検討することとしたい。 （2）避難行動要支援者避難支援制度の見直しの取組み状況について ●10月に避難行動要支援者になりうる人（1万名）に対しての調査を実施する。 地域防災計画にある5つのカテゴリーに入る方に対して記名式で郵送する。 ①65歳以上（年度内到達者）はがき又は電子回答 ②身体障害者手帳をお持ちで，▽肢体不自由（1級または2級）▽聴覚障害・平衡機能障害▽視覚障害－のいずれかに該当する方 ③療育手帳「○A又はA」をお持ちの方準じる方 ④精神障害者保健福祉手帳（1級）をお持ちの方 ⑤①～④に準ずる方（災害時に，自力または家族の手助けだけでは避難所等へ行けない在宅の方で，難病や小児慢性特定疾病の方，医療的ケアが日常的に必要な方，身体障がい者補助犬を同伴する身体に障がいのある方，65歳に満たない要介護認定者など） ②～④は全数調査（全数調査は初） 《質疑応答》 ●前もって調査概要については周知するのか。 ○広報とうかいで周知予定である。 ●避難行動要支援者避難支援制度の対象者に郵送して，利用するか否かの調査なのか。 ○主にはそのとおりである。登録を希望しない方には，希望しない理由について，調査する予定。なお，登録を希望すると回答した方に対しては，訪問や電話による調査を行う予定である。 ●今回の調査の実施により，避難行動要支援者避難支援制度の周知はできているという認識でよいか。 ○広報自体は毎年行っているが，今回は「広報とうかい」等を通じて今回の調査に関する周知も行うため，一定の周知につながると考えている。 ●対象者の内「⑤準じる方」については，村として該当する方をどのように選定するのか。

	○これまでの実態として，避難行動要支援者避難支援制度への登録希望者は全員登録しており，本人の希望に基づき登録している。 ●例えば，自治会長や，自治役員から「地域にいる○○さんは調査対象になるのではないか」といった問い合わせがあった場合はどう対応するのか。 ○制度の周知は行っており，自治会によっては実際に登録されている方もいる。他者からの推薦があった場合についても，対象として取り扱うこととしている。 ●「⑤準ずる方」の対象者については全数調査を行わないということか。 ○そのとおりである。 ●今回の安心部会で避難訓練について検討しているが，アンケートではトイレの不安や，防災無線・避難のタイミングに関する回答が多く見られた。1万人を対象とした調査が予定されているとのことだが，その調査票に避難訓練に関する項目を設けることは可能か。 ○調査票のスペースによる。 ●また，避難行動要支援者避難支援制度に登録しない理由の選択肢の中に，「避難所の不安」を選択できるように設定し，その調査結果を本部会に共有していただくことは可能か。 ○対象者の98％が高齢者であり，はがき形式で5～6問程度の設問を予定している。文字が見づらくならないよう，設問は端的に設定したいと考えており，設問を増やすと回収率が下がってしまう懸念がある。また，他部署にてはがきの予算を確保しているため，通知文形式での調査票の作成は難しい状況である。 ●調査にあたっては，高齢者と障がい者のどちらを優先して実施するのか。 ○基本的には高齢者である。対象者のカテゴリーに65歳以上という基準があり，視覚障害者等もその中に含まれる。一方で，そこに該当しない64歳以下の方については総合相談支援課で照会をかけ，高齢者のカテゴリーで重複する方は，まとめたうえで通知文と返信用封筒を送付する予定である。高齢者については，障がいの有無にかかわらず他部署からはがきが送付される予定である。 ●64歳未満の方への調査について，避難所に関する設問を追加したい。 ○部会への調査結果の共有と併せて，検討する。 ●通知文で送付する場合であれば，避難行動要支援者避難支援制度に登録するメリットやデメリットについても分かりやすく掲載するとよいのではないか。 （3）障がい者プランの策定状況について ○事前アンケートの調査結果報告について資料に基づき説明。 ○東海村障がい者プラン骨子案について資料に基づき説明。
そ の 他	○次回は第2回全体会議を10月23日（金）午後1時30分から総合福祉センター「絆」多目的ホールにて，開催予定。次回の安心部会については，全体会議時に日程調整を行う。